

# けいがん 子宮頸癌ワクチンについて

(2021 4/8)

## ●子宮頸癌とは

子宮下部の管状部分である「子宮頸部」にできる癌です。最近 20~30 代に増えており 30 代後半がピークです。国内では毎年約 1 万人がかかり約 3000 人が死亡、また 2000 年以後患者数も死亡率も増加しています。

## ●原因

ほとんどは性的接触によるヒトパピローマウイルス (HPV) の感染です。男女ともに感染し、性交経験のある女性の過半数は一生に一度は感染機会があるといわれています。しかし感染しても 90%の人は免疫でウイルスが排除されますが、10%は持続します。この内自然治癒しない一部の人は異形成という前癌病変を経て、数年以上かけ子宮頸癌に進行します。

## ●子宮頸癌ワクチン (HPV ワクチン) について

HPV に対するワクチンが開発され世界 70 カ国以上で接種が行われています。子宮頸癌の 60~70%が予防可能といわれ、WHO (世界保健機関) は有効性安全性を確認し、性交渉経験前の 10 代前半での接種をすすめています。欧米先進国や日本でも接種により感染率や前癌病変が、接種していない人に比べ減少することが明らかになっています。日本で HPV ワクチンは 2009 年 12 月に承認され、2013 年 4 月より定期接種となっていますが、接種後症状が生じたとする報告により、同年 6 月より自治体が積極的にすすめることは控えられています。この症状の原因がワクチンであるという科学的な証拠は示されておらず、厚生労働省専門部会でも因果関係は否定されています。

HPV ワクチンに関するご相談、接種を希望される方は医師、スタッフにお声かけ下さい。

医療法 KLC ファミリーランドクリニック南大高